徳島市都市計画マスタープラン策定 市民会議（第１回）
議事録（要約）

と　き　令和３年７月１日（木）　午後１時 30 分～午後３時 30 分

ところ　徳島市役所８階 庁議室

議　事　(1) 会長・副会長の選任

(2) 徳島市都市計画マスタープラン策定市民会議設置要綱について

(3) 徳島市都市計画マスタープランの策定について

① 都市計画マスタープランの概要

② 都市計画マスタープラン策定の背景と視点

③ 都市計画マスタープランの計画期間・目標年度等

④ 都市計画マスタープランの全体構成

(4) 策定スケジュールについて

(5) アンケート調査の実施について（市民・事業所・大学生）

出席者　・委員１４人（奥嶋会長、佐々木副会長、東委員、岡山委員、小川委員、柏原委員、黒田委員、髙源委員、島田委員、鈴江委員、瀬戸委員、滝本委員、辻岡委員、松﨑委員）

・事務局９人（企画政策部都市計画課）

・傍聴１人

１　徳島市都市計画マスタープランの策定について

副会長

現行のマスタープランの評価・分析はどのように実施するのか。

会長

現行のマスタープランの評価などに関して、事務局から何か。

事務局

進捗状況を確認するために、現行のマスタープランに掲げた方針・施策に関する進捗状況調査を各部局に依頼する予定である。その中で、達成できたもの、達成できなかったもの、継続して取り組むもの、改善・見直しを行うもの、新規に取り組むものなどを整理し、現行マスタープランの検証・評価を行い新たな都市計画マスタープランにも反映させていきたいと考えている。

会長

市民会議の場で、当該調査結果の概要は提示するのか。

事務局
　進捗状況調査の結果のある程度の中身については、示したいと考えている。

委員
　資料２の７ページの年齢別転入・転出数について、70～75 歳以上の転入者数が増加しているが、なぜか。

事務局
　要因の一つとしては、市内に高齢者施設が多くあるので、そこに入所する人が多いと思われる。

委員
　市外から施設へ入所のため転入する人がいる。若い時は県外にいて、高齢になって地元に帰ってくる。働くことのできない転入者が増加すると、市の財政に負担がかかると思うので、市としてよく検討いただきたい。

委員
　県において、資料２の 16 ページの洪水浸水想定区域における市街化調整区域の浸水想定３ｍ以上の場所について、開発の規制を強化するような議論が進んでおり、市街化調整区域の一部において住宅が建てられなくなることが想定される。既存の集落を維持するためにも、市街化調整区域の中でも、一部、集落を持続していくようなエリアを、都市計画マスタープランの中でしっかりと示すことも重要だと思う。「規制」と「誘導」の両面を考えるときに、「誘導」については中心市街地とともに、既存の市街地への誘導についても議論していく必要がある。

会長
　立地適正化計画は市街化区域の中で都市機能の集中を図る計画であるが、市街化調整区域においても小さな拠点を検討しては何か、という意見であった。事務局から何か。

事務局
　都市計画マスタープランはまちづくりに関する基本的な計画であり、立地適正化計画と整合を図りつつ、市街化調整区域内での土地利用をどこまで規制するのかを、市街化区域内での都市機能の誘導とのバランスを考えることが重要だと考えている。ハザードエリアにおいて住宅が建てづらくなるという法整備の動向も踏まえ、市街化調整区域における土地利用のあり方についても、市民会議の委員の皆さんのご意見をお聞きしながら、検討を進めていきたい。

委員

市街化調整区域の方針については、既に宅地分譲が進んでいるなどの現況や都市計画マスタープランに「郊外まちづくり調整ゾーン」と位置付けている状況も踏まえ、その考えを基に検討をしたほうがよいと思う。

会長

既に宅地分譲が進んでいる状況などを踏まえて市街化調整区域の方針を検討した方がよいのではないか、という意見であった。事務局から何か。

事務局

現行の都市計画マスタープランにおける「郊外まちづくり調整ゾーン」は、全市的な観点から開発などの必要性を検討した上で、秩序ある土地利用を誘導するエリアであるが、現行の「郊外まちづくり調整ゾーン」をそのまま引き継ぐことについては疑問を感じている。「郊外まちづくり調整ゾーン」を継続するか、民間開発をどこまで規制していくかについて、考え方・方針を整理していく必要があると考えている。また、開発を規制していく中で、すべての開発を規制することは、将来的な民間開発の芽を摘んでしまうことになりバランスが悪いとも思われるので、市街化調整区域における土地利用規制の考え方・方針については、今後の議論のポイントであると考えている。

委員

資料２の 23 ページの「３　防災・減災対策と復興事前準備の両立を図り、都市構造の強靭化を推進」の項目だが、国土強靭化地域計画とも関連している。避難所があっても、避難路が急に狭くなったりしているところがある。そこで避難に要する時間を測定すると、半数近くが避難所へたどり着けないような道があるので、計画するうえでよく検討していただきたい。また、緊急避難所がいくつあっても、津波等の緊急の時は、人間の心理として、より高くより広い避難所へ逃げると思うので適切な誘導方法が課題だと思われる。

会長

実態を踏まえた避難計画が必要ではないか、という意見であった。事務局から何か。

事務局

関係部局と共有する。

委員

川や自然を活かしたまちづくりを継続し、関係人口を増やしていくことが大切である。

また、観光客から徳島市の二次交通（公共交通）の弱さを指摘されており、将来的な鉄道やバスのあり方を踏まえてまちづくりを検討していくことが重要である。加えて、徳島市にはさまざまな良いところや面白いところがあること、徳島を良くしていくことは地域住民自身であるということについて住民への啓発活動を行っていくことが重要である。

会長

コロナ禍においてはなかなか難しいと思うが、関係人口を増やしていくためにも、二拠点居住などの考え方も必要だと感じている。事務局から何か。

事務局

関連する計画として、徳島市地域公共交通網形成計画があり、その中でも、中心拠点と周辺部・地域拠点とを公共交通ネットワークでつなぐことを謳っており、その意味でも二次交通が重要であるとの認識である。また、歴史資源や景観資源を活かし、啓発していくという視点も踏まえて、検討を進めていきたい。

委員

子育てをしている人から、バスが利用しづらいとの話が出ており、例えば、最寄りのバス停から市の施設などの目的地に行くためには、一度、徳島駅を経由しなければならないことが多い。最寄りのバス停から目的地に直接行けるような路線が必要である。また、ハザードマップを見たことがない人やさまざまなハザードマップがあることを知らない人も多いので、市民の意識を啓発していくような視点も盛り込んでいくことが必要である。加えて、災害が起きた際のリスクを再整理することが重要である。

会長

公共交通については、コロナ禍において利用者も減り、経営も厳しい状況であると聞く。そのような中で、サービスを向上していくことはなかなか厳しい状況にあるとは思う。公共交通のサービス向上に係る考え方も都市計画マスタープランに盛り込んでいくべきではないか、という意見と、災害への準備に係る点も都市計画マスタープランに十分に盛り込んでいくべきではないか、という意見であった。事務局の方から何か。

事務局

本日から、徳島バスと徳島市バスが 1,000 円で両社の路線バスが全区間一日乗り放題となる乗車券を発売したところである。このほか、さまざまなサービス・向上策などが徳島市地域公共交通網形成計画に基づき適切に進められていくものと考えている。また、ハザードマップについても、防災・減災に関する考え方をどのように反映していくかについては、しっかりと検討していきたい。

―会長退出―

委員

人口減少や高齢化について、交流人口が増えることでまちの魅力が増え、結果、定住人口が増え、経済活動につながるなど、さまざまな要素が関係しているが、その因果関係が一つでもわかるとよい。これまでのアンケート調査などから明らかになっていることで、共有できるものがあれば、市民会議の場に示していただきたい。また、高齢化や人口減少は避けられないという点で都市計画を進めていくのか、それともそれらを少しでも食い止めていくという点で話を進めていくのか、２つの視点から検討していくとよいと思う。

副会長

因果関係に関する話であったが、市において分析などはされているか。

事務局

データについては確認し、何かあれば、市民会議の場でお示しする。人口減少は避けられないと考えており、それを少しでも食い止めることを前提として、市民会議の場でもご意見を伺いながら、まちづくりの方向性を検討していきたい。

委員

徳島市は水の多いまちと言われているが、実際は新町川のボードウォーク・ひょうたん島クルーズのみしか当てはまらないように感じる。特に、暑いときに、なぜ、（新町川水際公園の）噴水が使えないのか、という声をよく聞く。このような、足元からまちづくりに力を入れる必要があると思う。徳島は人口減少となっているが、全国転勤のある金融関係の業種では、採用されてすぐの若い人たちが配属されて来る。徳島で結婚して、子どもができる人が何人もいる。その人たちによると、徳島は子育てには良い、と。これらの子育て世代が子育てしやすいまちづくりが必要である。また、市役所の近くに新しい駅ができるが、不要であるとの声も聞く。ひょうたん島クルーズに乗った人が中洲市場で降りて、新鮮な魚を買っていくような、中洲市場を活用していくようなまちづくりが重要だと思う。

事務局

新町川水際公園の噴水については、最近、メンテナンスの関係で使用を停止していると聞いているが、担当課に確認する。

委員

O-157 の際に、病気への対策として噴水の使用を停止したと聞いている。

副会長

足元からの取組みに関する話であった。活用できるものは活用し、まちづくりに役立てていけたらよいと思う。他に何か。

委員

コロナ禍で、商店街が空洞化し、人も減ってきている。また、以前は商店街に自転車が多く、子どもが歩きづらい印象であった。最近は、商店街の中に住宅があることもあり、コロナ禍で歩行者が減ったことから、車やバイク利用が多くなってきている。人のにぎわいが無くなるのはよくないと身に染みて感じている。人が歩きやすいような商店街にしていくことが重要である。

また、商店街の耐震化の問題もあり、非常に危険な環境の中で子どもたちが過ごしている。

副会長

歩きやすいまちづくりは、マナーやモラルにつながる話かと思うので、関係部署と連携していただければと思う。他に何か。

委員

最近、若い人が集う場がないとよく聞く。若い人が集う場があれば、にぎわいにつながると思う。また、徳島市において、レクリエーションに係る大きな大会の開催が２つ予定されている。バスの本数が 10 年前と比べると減ってきており、バスが利用しづらくなっている中で、県外の人におすすめできるような、徳島を楽しんでもらえるような、観光面からのアプローチも重要である。

副会長

観光に対しても力を入れていかなければならないなかで、今回の都市計画マスタープランの策定の中でも検討すべきことがあると思うが、事務局から何か。

事務局

現在、中心市街地活性化基本計画の策定を進めており、その中で、人がにぎわう場づくりを進めようとしているので、若い人が集うことができる場づくりについても検討していきたい。また、徳島市には地域資源はあると思うので、地域資源を再認識して、市全体で全国に発信できればと考えている。観光や地域の活性化、公共交通、まちづくりを密接に結びつけていく中で、都市計画マスタープランにどのように反映していけるか、検討していきたい。

２．アンケート調査の実施について（市民・事業所・大学生）

委員
　ワークショップについて、子育て世代の人が参加する場合、託児は希望すれば対応いただけるか。

副会長
　幅広いご意見をいただくためには、子育て世代も参加しやすいように、託児の対応も必要かと思うが、事務局から何か。

事務局
　ワークショップの際の託児については、どこまで対応できるか検討したい。

委員
　アンケート調査票の最後のまちづくりに関する自由記述について、ポジティブな意見もいただけるように、「ご意見等」ではなく「ご意見、ご提言等」との記載するほうがよいと思う。

副会長
　前向きなご意見もいただけるとよいと思うので、修正いただければと思う。

事務局
　ご意見のとおり修正する。

委員
　市民アンケート調査の問７の「自動車」について、自動二輪車を含むのか否かがわかりづらいので、記載を検討したほうがよいと思う。

事務局
　注釈を入れるよう検討する。

委員
　アンケートの中に、「市の情報発信に関する情報取得方法」を加えるとよいと思う。

事務局
　対応を検討する。

委員

市民アンケート調査票の問８の「12.通学のしやすさや子ども向け施設の充実度」について、「通学のしやすさ」と「子ども向け施設の充実度」が一緒の設問にまとめられていることに、違和感を感じるので、記載を検討したほうがよいと思う。

事務局

修正するよう検討する。

副会長

他に何か。本会議後に気づいた点があれば、事務局にご連絡いただければと思う。

以上